

農業を科学する

アグリとサイエンス



中山間地で大活躍する農業機械
～耕うんから管理作業まで1台で～

中山間地とは、平野を囲む

緩やかな傾斜地から山間地を

指します。中山間地の水田は

平坦地と違って面積が狭く、

形も不ぞろいなため、大型の

機械を使って能率よく農作業

を行うことが難しいので、人

間が押して作業する歩行型の

機械なども使われています。

このような傾斜地での作業

のきつさや農作業をする人の

減少、高齢化などで、耕作放

棄される水田が増えて深刻な

問題となっています。

そこで、農研機構と農業機

械メーカーが共同で、中山間

地の水田でも使え、乗ったま

ま作業ができる新しい小型の

多目的管理機（通称「中山間

ビークル」を開発しています。

◆ビークル1台で何役もこなす

これまでは作業ごとにそれぞれ異なる機械を用意する

必要がありました。中山間ビークルは耕うん、田植え、

溝切りや農薬散布などの管理作業を1台でこなせます。

例えば耕うん作業では、歩行型耕うん機を改造した作

業機を取り付けることで、乗ったまま耕うんが行えます。

田植え用作業機を取り付ければ、田植機に早変わり。1

台でさまざまな農作業に使うことができます。機械を

購入する費用を抑えることができます。

◆中山間地での運転も安心

また、中山間ビークルは後輪を上げ下げできるユニー

クな機能を持っています。後輪を下げると前方に傾いた

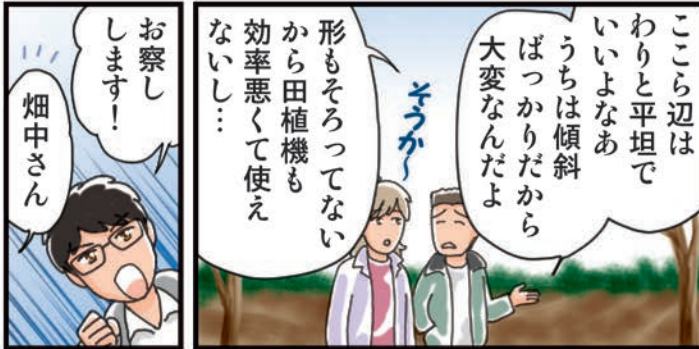
姿勢をとることができます。この機能を使うことにより、

田植えや管理作業後に水田から出る時や、傾斜のきつい

農道を走行する時に後方へ転倒しそうになるのを防げま

す。

絵・筒井 博子



さらに、中山間地の農道は起伏が多く、横方向に大きく傾くこともあるため、横方向の傾きにも耐えられるように、車体の重量バランスが工夫されています。

このような新機能により、作業者は傾斜地でも安心して運転できるようになります。

さまざまな新しい機能を盛り込んだ中山間ビークルは、

現在、開発の最終段階に差し掛かっており、多くの人に使用してもらえるように改良が進められています。

中山間地における水田農業の維持・振興に向けて、中山間ビークルの活躍が大いに期待されます。